開会挨拶
内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 事務局長
松尾泰樹

- 本日はお忙しいなか総合知ウェビナーにお集まりいただき深く感謝申し上げる。まず、本日ご議論いただく総合知について、議論に入る前、現在の岸田政権での様々な取り組みについて少しご紹介をしたい。
- 昨年 10 月に岸田政権が発足し、成長の第 1 の柱として科学技術・イノベーションと銘打っている。加えて、その中で一番大きな要諦は人への投資である。特に、未来の教育を含めて、文理融合し様々な力を結集するということとしている。その根底にあるのは今回のテーマである総合知である。これが個人の総合知なのか、チームによる総合知なのか、様々であろうが、文・理を越えた知を集めるということと理解している。
- 昨年の 3 月に第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を閣議決定した。その中で、Society 5.0 で描く未来の社会像を検討している。その中には、国民の安全と安心、そして一人一人の多様な幸せ、すなわち、Well-being をどう実現できるか、そこに科学技術・イノベーション力がどのように寄与できるか。その実現に向けて、「総合知による社会変革」、そして「知・人への投資の好循環」、これを科学技術・イノベーションの政策の方向性として示している。
- 現在、気候変動、新興感染症、そして、ウクライナ問題等の国家間紛争に伴うエネルギー資源、食料など様々な課題に直面しているが、これは一国では決して解決できない課題である。また、自然科学の成果だけではなく、人文社会科学を含めた多様な知による創造そしてそれらが融合して初めて解決ができる、そういったものが総合知であろうと思っている。
- 司会から先ほど申し上げたが、内閣府の有識者会議でも昨年度に総合知に関する中間取りまとめを行っている。実際、自分達で考えてみても、総合知の捉え方は人によって異なっており、様々な経験・方法が色々あり、また、時代によっても地域によっても総合知の捉え方は違ってくるであろう。その中で、多くの経験をストレージし、それを共有化し、自分に取り込み、そしてアウフヘーベンしていくことが重要であろう。
- 中間取りまとめでも、本日のようなシンポジウムやワークショップを通じて総合知を広く社会に発信すること、総合知の活用事例を収集すること、研究の最前線の研究者と意見交換を行うこと、そして社会に普及して総合知を普通に捉えていただくこと、そして、総合知をブラッシュアップしていくことを重要としている。我々もそのような方向性で実施していきたいと考えている。
- 本日は、総合知に関係する事例をご紹介いただき、今後の取り組みと推進方策について、議論がなされると考えている。ぜひ、積極的に意見をいただくことで、有意義なウェビナーになることを期待している。